

【p38～p43】 ホタルが照らす里 一中畑町によみがえったかがやき

## 1 資料活用にあたって

- 地域の復興のために力を合わせてきた人々に焦点をあてれば、内容項目はC（17）であるが、人間と自然との共存の在り方に焦点をあてれば、内容項目はD（20）となる。
- P38～P39の水害の状況とその後の町の整備は、プロローグ的に扱い、P40から授業の発問構成をする。

## 2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は、内容項目をC（17）と想定して示している。
- 変化するのは：藤原さん（子どもが「藤原さん」になって考えられるように発問を工夫する。）
- ※ 藤原さんの呼びかけでみんなも変化するが、変化の様子がわかる藤原さんを主人公にする。
- 変化するきっかけ（助言）は：井上さんのホタルを呼び戻す取り組み
- 変化するところは：「ホタルを呼び戻そうや。わたしの力で。」

## 3 読み物資料の素材について

### 【参考URL】

- ・ 畑谷川のホタル（西脇市HP内）  
[https://www.city.nishiwaki.lg.jp/kakukanogoannai/shichoukoushitsu/hisyokouhouka/CityPromotion/videlibraty/Scenery\\_Events/h29/firefly.html](https://www.city.nishiwaki.lg.jp/kakukanogoannai/shichoukoushitsu/hisyokouhouka/CityPromotion/videlibraty/Scenery_Events/h29/firefly.html)

### 【問い合わせ先】

- ・ 「ふるさとホタルまつり」に関する情報  
西脇市市長公室秘書広報課（広報担当） Tel 0795-22-3111(代表)
- 台風10号（1983年9月）の水害について
  - ・ 台風10号の接近により活発化した秋雨前線は、9月28日には早朝から強雨をもたらし、県内では河川のはん濫、山・がけ崩れが多発した。
  - ・ 本資料の舞台である西脇市にも多量の雨をもたらし、住宅全壊4戸、住宅半壊16戸、床上浸水335戸、田畑流出223箇所、がけ崩れ26箇所、流出橋梁2箇所などの被害をもたらした。
- ふるさとホタルまつりについて
  - ・ 中畑町の住民の故郷を思う気持ちの象徴がホタルであるといえる。台風10号による水害から6年後の1989年に第1回が開催されて以来、町をあげてホタルの飼育、環境保全に努め、2016年まで毎年にごやかに「ふるさとホタルまつり」が開催されていた。
- ホタル復活への人々の思いについて
  - ・ ホタルは全くの清流には出現しない。幼虫のえさとなる川ニナが育つ環境でなければ、生育できないからである。そのため、本資料にあるように、玉ねぎなど具のたくさん入った味噌汁を布袋に入れて川に沈めるといった、地道な作業を地域の人々が続けた。
  - ・ また、豊中市下水道局をはじめ、数か所の先進地へ出かけて指導を受けるなど、ホタルをふるさとに復活させる取組を続けた。更に工事に際しては、約10メートル間隔にミニ井堰を設置するとともに、幼虫の隠れ家となる流石を配置するといった設計変更まで行われた。ここにも、中畑町の人々のホタルに対する強い思いを伺い知ることができる。

（地域の方々への聞き取り及び「西脇市地域防災計画」から）

## 4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ふるさとへの思い C (17)
- ・ **資料の概要** ・台風による水害の復旧により、ふるさとの川や水路がコンクリートで固められた姿を見た藤原さんは、安心する一方で自然が失われたことにももの足りなさを感じる。そんな時、井上さんの地道な取組を知り、ホタルを呼び戻す活動をみんなに呼びかけて行動を始める。数年後、ふるさとの水路に戻ったホタルを感慨深げに藤原さんは見つめる。
- ・ **ね ら い** ・井上さんのホタルを呼び戻す取組をみて、もう一度中畑町の町にホタルを飛ばそうと努力する藤原さんと町の人々を通して、先人の努力を知り郷土を愛する道徳的实践意欲を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P43の写真(ホタルのイメージ)を見ましょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら、黙読する。 ・修理された川の様子を見た時の主人公の気持ちを考える。	新しい川や水路のほとんどがコンクリートで固められた姿を見た藤原さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・川も安全になり、水害の心配もなくなったな。 ・何かもの足りないな。 ・ふるさとらしさがなくなって寂しいな。
	・ホタルを呼び戻す活動をみんなに呼びかける主人公の気持ちを考える。	「ホタルを呼びもどそうや。わしらの力で。」と呼びかける藤原さんはどんな思いだったのでしょうか。 ・何かしないとふるさとに元気をとりもどせないぞ。 ・これなら、みんなで一緒にできるぞ。 ・みんなで協力すればできるぞ。
	・ふるさとの水路にホタルに戻った様子を見た時の主人公の気持ちを考える。	水面にゆれるホタルの光を目で追いながら、藤原さんにはどんな思いがこみ上げているのでしょうか。 ・ホタルがもどってきてくれてうれしい。 ・みんなの力でふるさとの自然を取り戻したんだ。 ・ふるさとのみんなも喜んでくれるだろう。
	・「ふるさとホタルまつり」でホタルの光をながめる主人公の気持ちを考える。	「ふるさとホタルまつり」で子ども達の元気な声を聞きながらホタルの光をながめる藤原さんは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・この子たちが大人になっても、ホタルが飛び交うふるさとであってほしい。 ・この子たちのためにも、自然豊かなふるさと守らなければいけないな。 ・子供たちに、ふるさとのすばらしさを伝えていこう。
終 末	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

主人公に「愛する郷土を何とかしたい」という意識が起きていることをおさえる。

井上さんがホタルを呼び戻す取組をしている話がきっかけとなり、主人公の「愛する郷土を何とかしたい」という意識が高まっていることをおさえる。

みんなの努力が実り、愛する郷土の豊かな自然を取り戻すことができたことに感激している主人公の心に共感させる。

ホタルの光をながめる主人公が、「ふるさとのよさを次の世代に継承していかなくては」という実践意欲を強めていることをおさえる。